



働き方改革の実現に向けてBYODを推進 iPhone/iPad約2100台の管理を効率化

NSSOLの支援で豊富な機能と実績を持つ「MobileIron」を導入

背景

働き方改革の実現に向け、モバイル端末で社外から電子メールやスケジュール管理システムなどを利用可能にする。個人所有の端末を安全に活用するため、EMM(エンタープライズモビリティ管理システム)を導入したいと考えた。



株式会社デンソー
情報企画部
IT基盤推進室長
小林 公英氏



株式会社デンソー
情報企画部 IT基盤推進室
情報セキュリティ企画課長
東郷 圭一郎氏



株式会社デンソー
情報企画部 IT基盤推進室
情報セキュリティ企画課
担当係長
中根 徹裕氏



株式会社デンソーITソリューションズ
ITサービス部
運用サービス室
丹羽 陽一郎氏

DENSO

株式会社デンソー
本社：愛知県刈谷市昭和町1-1
設立：1949年
資本金：1874億円(2015年3月31日現在)
売上高：単独2兆4372億円/連結4兆3088億円(2015年3月期)
従業員数：単独3万8493名/連結14万6714名(2015年3月31日現在)
グループ会社：連結子会社188社、持分法適用関連会社35社(2015年3月31日現在)

株式会社デンソーITソリューションズ
本社：愛知県名古屋市中村区名駅南1-27-2
設立：2001年
資本金：8000万円
従業員数：349人(2015年3月現在)

ソリューション

EMM製品として、電子メールの添付ファイル暗号化など豊富な機能と導入実績を持つ「MobileIron」を選定。デンソーの社内システム構築・運用に長年の実績を持つ新日鉄住金ソリューションズにシステムの導入支援を依頼する。

成果

モバイル端末からの情報漏洩対策が抜本的に強化され、業務スピードの向上、出張時の無駄な移動の削減などが実現し、働き方改革が加速した。2015年3月時点ではMobileIronでiPhone/iPad約2100台を管理する。

BYODの推進へエンタープライズモビリティ管理システムの導入を検討

「先進」「信頼」「総智・総力」の3領域にわたる「デンソースピリット」に基づいて自動車部品を軸とする多様な電子機械製品を製造・販売するデンソー。2020年に向けた長期経営方針を「地球と生命を守り、次世代に明るい未来を届けたい」というスローガンにまとめている。同社がEMM(エンタープライズモビリティ管理)システムの導入を検討したのは2012年度のことである。当時、デンソーは場所・時間にとられない新しい仕事の進め方を目指す働き方改革に着手。その一環として社外から安全に、電子メールやスケジュール管理システム、電子決裁システムへアクセスする仕組みを整備したいと考えていた。個人所有のiPhoneやiPadによるBYOD(私物端末の業務利用)を推進するため、端末管理の抜本的な強化に取り組んだ。

MobileIronを選択、システム構築実績が豊富なNSSOLが導入を支援

デンソーは「データの安全性」「不正改変対策」「公私混同防止」「外部攻撃からの防御」の4分野にわたる多数の評価項目を基にEMM製品として、電子メールの添付ファイル暗号化など豊富な機能と導入実績を持つ「MobileIron」を採用。その導入支援を、デンソーのシステム構築・運用に長年の実績を持つ新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)に依頼した。MobileIronの導入は2013年1月～3月に実施。4月から本格的に運用している。デンソーは当初、本社で利用する端末を中心に約700台を管理。その後も、端末を順次増やし、2015年3月時点では約2100台を管理している。さらにデンソーは、NSSOL中国現地法人の新日鉄住金軟件(上海)の支援で、中国・上海市の現地法人にもMobileIronによる端末管理の仕組みを導入した。

情報漏洩対策を抜本的に強化、業務スピード向上で働き方改革を加速

成果は大きい。MobileIronの導入により、デンソーは、電子メールの添付ファイルを含めた端末内データの暗号化や、端末内データの遠隔消去などでモバイル端末からの情報漏洩対策を抜本的に強化。BYODで社外から電子メール、スケジュール管理システム、電子決裁システムへ安全にアクセスする仕組みの本格運用をスタートさせ、業務スピードの向上、出張時にオフィスへ戻る無駄な移動時間の削減などによって、働き方改革を加速させている。

今後、デンソーはモバイル端末の活用範囲をさらに広げていく。リアルタイムコミュニケーションなどへの用途拡大、生産現場でモバイル端末を活用する「造り方変革」の推進などを検討しており、MobileIronの管理対象はこれからも増える見込みだ。

Key to Success

デンソーがMobileIronを導入した背景は、働き方改革の一環として取り組んだBYODである。

情報企画部 IT基盤推進室長の小林公英氏は「当社は、場所や時間にとられない新しい働き方の実現を目指す働き方改革を進めており、モバイル端末を複数台所有する煩雑さの解消やコスト削減などのため、BYODに取り組みました。個人所有のスマートフォンなどから社内の電子メールやスケジュール管理システムへ安全にアクセスできるようにするには、EMMシステムが不可欠でした」と話す。

情報企画部 IT基盤推進室 情報セキュリティ企画課長の東郷圭一郎氏は「基本的にモバイル端末が会社のデータを持たないようにしますが、端末がデータを持つ場合は漏洩を確実に防ぐ仕組みが必要です。また、端末ソフトウェアの変更を厳格にチェックする、会社のデータと個人のデータを分離して保存する、外部からの攻撃を確実に防御する——といった観点に基づき、事前検証を行い、MobileIronを選定しました」と振り返る。

情報企画部 IT基盤推進室 情報セキュリティ企画課 担当係長の中根徹裕氏は「MobileIronは、ゲートウェイサーバーを使って電子メールの添付ファイルを自動的に暗号化する機能を備えており、企業への導入実績も豊富です」と述べる。

同製品の導入を支援したのがNSSOLである。

「MobileIronの導入を支援いただけるSI事業者は複数ありますが、NSSOLには当社のシステム構築に関する豊富な実績があり、強い信頼関係が築かれています。運用を始めてから

の技術的な支援についても大きな期待ができました」(小林氏)

MobileIronは、2013年4月から運用を開始。段階的に管理対象端末を増加させている。

強い信頼関係があるNSSOLを選択 技術支援も迅速できめ細かいと評価

NSSOLの技術支援に対する評価は高い。MobileIronの運用を担当するデンソーITソリューションズ ITサービス部 運用サービス室の丹羽陽一郎氏は「管理対象であるiPhone/iPadでは、基本ソフトウェアのアップデートが頻繁に行われます。MobileIronもアップデートによって対応しますが、トラブルが発生したときもNSSOLが迅速に対応してくれました。iPhone/iPadのアップデートに関する最新の情

報も提供してもらえ、非常に助かっています」と話す。

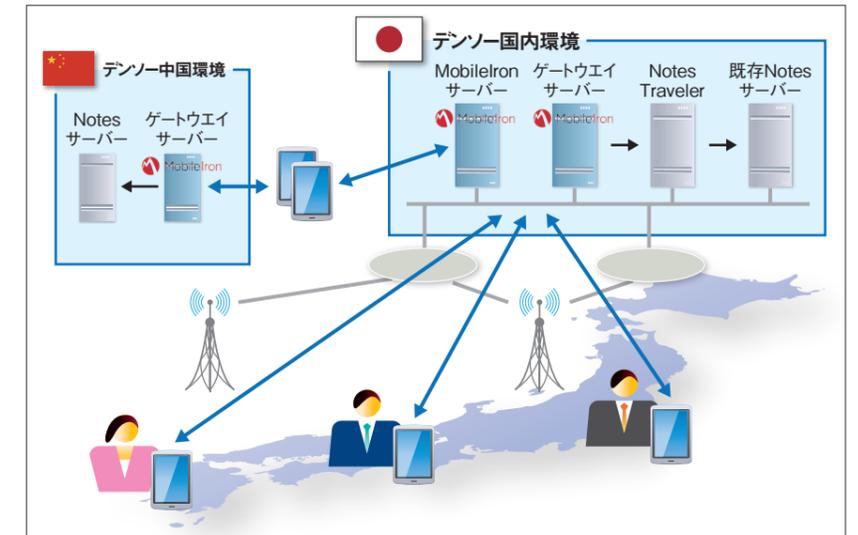
BYODの推進によって、デンソーの働き方改革は大きく加速している。

「出張先から、電子メールやスケジュール管理、電子決裁の各システムへ安全にアクセス可能になり、業務スピードが向上しました。出張時に、電子メールなどを見るためだけにオフィスに戻る必要もなくなり、無駄な移動時間が削減されています」(東郷氏)

モバイル端末の活用範囲はこれからも拡大する見込みで、NSSOLへの期待は大きい。

小林氏は「今後、モバイル端末の活用範囲を生産現場などへ拡大していきます。NSSOLには、EMMベンダーやモバイル端末メーカーとの橋渡しの面でも期待しています。当社システムの構築・運用を担当してきた実績を基に、今後も付加価値の高い提案をお願いしたいと思います」と語る。

■デンソーが導入した「MobileIron」の概要



■コアテクノロジー

BYOD(私的端末の業務利用)、EMM(エンタープライズモビリティ管理)、電子証明書認証、LDAP活用、暗号化、iPhone、iPad

■システム概要

- モバイルデバイス管理ソリューション: MobileIron
- 端末: iPhone/iPad×約2100